

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が自立し生活して行くことをホームの柱にしています。利用者の人間関係や地域での生活を継続することにより生活に意欲を持ち、介護される者として依存した生活でなく、自立した人間として自由に発言し、自分の意志で生活する事を大切にして行きたいと思います。個々の利用者が自分自身の生活を取り戻してゆける環境を創り出したい。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を全職員が共有し、理念を意識しながら利用者に関わりを持てるのかを月3回の勉強会、月1回のICFの勉強会を行いながら議論し、検証しています。その事が利用者のケアプランの中で実現しているのかを常に議論しています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の繋がりを途絶えることがないように利用者の生活の様子を伝えと共に、地域の中でも、ホームの理念や活動を、回覧板を利用して教宣し、イベント等にも参加して頂き、利用者も、ご近所におじゃましたり、散歩をしながら立ち話をしたり交流をしています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中で合った人や近隣の方にお互い挨拶をしたり、畑で取れた物を差し入れしてくれたり、畑になっている物を自由に収穫させて頂いたり、草取りを手伝ったりしています。牛小屋の掃除をしたり、餌をやりに行くことを楽しみにしています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りには、神社にお参りに出掛けたり、獅子舞がホームに来てくれ入居者一人一人の頭をかんでいってくれたり、老人会の方々がホームに来てくれ、お茶を飲みながら一緒に話をしていたりしています。散歩しているときに、地域の方が気軽に声をかけてくれたり、こちらから挨拶したり、立ち話をしています。	

岐阜県 NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

岐阜県 NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時点で、ホームの理念や活動、ケアの基本的考え方を充分話し合い、納得して頂き、入所後に起こりうるリスクもお話ししています。重度化した場合にはどうするのか、医療適応になったときにはどうするのかを事前に話し合いをしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不安や訴えを的確に把握し、即座に解決するようにしています。また、御家族にも連絡を取り相談させて頂いたりします。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況や様子、健康状態について担当者から月1度手紙で報告連絡しています。御家族がホームを訪問された際、報告すると共に、その都度、電話にて相談させてもらったり、連絡を緊密に取るようにしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から出された意見、不安を充分聞き、勉強会やカンファレンスで討論すると共に、解決の方向を即座に御家族に報告することをしています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やカンファレンス等で職員の意見を聞いたり、個別に話し合いをすると共に、運営については管理者がトップダウンすることなく、ケアマネ・介護責任者や担当者として話し合いをして決めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	介護責任者・担当者の意見を聞きながら、利用者の状況を分析し、夜勤者の増員や、勤務時間の変更を行いながら利用者にとって最良の方法を検討しながら調整しています。	

岐阜県. NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者にとって馴染みの職員による介護が利用者にとって必要なことと思います。職員の移動を少なくしなければならないと思います。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19 ○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>他のグループホームの1日実習や資格取得のための研修会や、グループホーム全国大会、県の研修会に参加して、スキルアップを図ると共に安定した介護観を身につけると共に、ホーム全体のレベルアップを図っていききたい。</p>		
<p>20 ○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>飛騨地区グループホーム連絡協議会を開催しており、その中でグループホーム間の職員交流を図っています。また、ケアマネ交流会を2ヶ月に1度開催し、地区全体のレベルアップを図って行くことを考えています。</p>		
<p>21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の健康に留意し、年2回の健康診断を行うと共に、ストレスに配慮し、休息の時間、勤務時間を考慮しています。人間関係にも配慮しながら、話し合いをきめ細かに実施しています。</p>		
<p>22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員のレベルアップを考え、各種研修や、資格取得を奨励すると共に、参加のための条件作り（勤務時間の調整）や、賃金保障もしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の方の生活環境を知ることの意味合いからも、入居前に、事前に家庭訪問し、本人の希望を聞いたり、家族の状態や希望を聞き受入をしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の意向を事前に聞き、特に気を配っていること、注意しなければならないことを伺い、安心して入居できるように準備をしています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いを聞いたり、必要としている支援を判断し、家族と相談しながら担当ケアマネと連絡を密にし、入居待機の期間、他の事業所のサービスを検討しています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人・家族にホームに来て頂き居室やホームの雰囲気を感じて頂いたり、ディサービスを利用して頂いたりしながら自然な形で入居できるよう努力しています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の話を聞きながら、食事作りの時も職員が一方的に献立を考えるのではなく利用者が献立を考えたり、畑仕事も利用者に植える物を決めてもらい、苗を買ってきてもらう等する中で利用者の方々と仕事をやり遂げた喜びや、収穫の喜びを分かち合えるようにしています。	

岐阜県. NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族には、利用者に状況を月1回担当者が手紙で知らせるほか、相談したいことや、状況の変化について電話で話をしたり、ホームに来て頂いたり、家庭訪問して話し、利用者のことを共に考えてもらうようにしています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族とのお互いの思いや状態を理解しながら傾聴し、ホームでの生活をお知らせすると共に行事にも参加して頂き、家族の関係を深めていくことを考えている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで生活してきた場所に出掛け近所の人と面談したり、今まで通い慣れた美容院や店に行ったりと関係を断ち切らないようにしています。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の自然な助け合いや会話には、スタッフは出来るだけ見守るようにし、利用者同士の話し合いで献立を決めたりしているときは援助しています。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した方の家族には、ホームの新聞を送り、ホームの活動を報告しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で本人が話されていることや職員に訴えている事を的確に把握し、本人の意向に添ってケアプランに反映しながらスタッフ全員が共通の認識を持つようになっています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、家族からの情報をいただきながら今までの生活歴や生活環境を知ることによりスタッフの関わりをどうして行くか検討し、スタッフ同士で知り得た情報を共有しケアプランを検討しています。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の状態を日々把握し、スタッフ全体のものにすることに気を付けると共に、スタッフが介入しすぎているために、利用者の持てる力を発揮できずにいるのではないかと配慮しています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	スタッフの共通した認識を作りながら、利用者の状態をきめ細かにアセスメントすることにより家族に相談したり、医師や看護師に意見をもらったりしながらケアマネと共にプランを作成し、本人にも話をしながら介護計画を作成しています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況の変化に対応し、家族や医師や看護師・ケアマネ等と相談し、ケアプランを変更、今後のケアを検討し、スタッフと迅速に意思統一しています。	

岐阜県 NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		

岐阜県 NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

岐阜県 NPOグループホーム すずらんの木 (1階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人が自宅からホームへの移動の際は、担当ケアマネからの情報を基に家庭訪問させて頂き状況を知ることや、環境を出来る限り家庭の環境に近づける事を考えたり、ホームから他の場所に移動するときは、ホームでの様子や、介護の状況、注意しなければならないこと、本人の心の状態を詳しく話し合いを行うようにしています。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄の失敗の時など、職員は素早く動き、他の利用者の目にとまることなく関わるようにしています。また、声かけの際にも、注目を浴びないように配慮しながら超えかけをしたり、職員同士で連携しながら介護をしています。ファイル等の記録については、利用者の目にとまらないように棚に整理しています。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者のレベルに合わせ話をし、本人が何を望んでいるのかを引き出し、本人の意思や意向に添った介護をしています。買い物や、以前住んでいた地域に出掛けたり、食事のメニューを決めたり、風呂の時間も本人の希望する時間に変更したりと本人の意向を聞き出しています。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の意向を聞き出し、本人が希望する事を最優先に職員は関わっています。一人一人の状況は日々変化しているので状況に合わせ支援しています。風呂等は、毎日入浴希望の方や夜でないといけない方様々です。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>起床時に、今日の衣類を何にするのか選択して頂いたり、汚れに気を付け、着替えをして頂いていますし、理美容店も、今までのかかりつけの店に出掛けたりと、本人の希望に添って出掛けます。今までの関係を大切にしてくるよう支援しています。</p>	

岐阜県 NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

岐阜県 NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診したり、買い物の時や、喫茶店に行ったときは本人が支払をしてもらうようにしています。レジでお金を払い釣り銭を確認することを忘れないように声かけをしながら行っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩・受診を一人で出来る方には一人で行ってもらうようにしています。買い物はほとんど毎日出掛けるので買い物に出掛けるメンバーを換え、帰りにみんなで喫茶店によたり、団子を食べに行ったりしています。墓参に行ったり本人の希望に添って外出を支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者同士で話し合って寿司を食べに行ったり、御家族に来て頂き、温泉旅館で温泉に入りながら食事をするイベントを組んでいます。家族と連絡を取りながら食事に誘い出して頂いたりしています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を掛けたいときには、かけてもらったり、はがきをいつも用意して手紙が書きたいと思ったときにすぐ書けるようにしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問して頂けるよう時間を制限することなく受入をすると共に、来て頂いた方にこれからも訪問をして頂けるようお願いをしています。居室でお話しして頂いたり、食堂で歓談して頂いたりといろいろですが、職員は、距離を取って本人が混乱しないようサポートしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が点滴等を受ける際にも拘束をしないように職員がそばにつき話をしたり、手を握ったり、つき添うことで拘束をしない介護をしています。		

岐阜県 NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

岐阜県 NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	御家族とは入所時に考えられるリスクについて話を伺いながら確認することと、状況の変化に伴いリスクについて話し合いを行っています。またその時点で今後どうされるか、ホームの考え方についても再度確認するようにしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食事摂取状況や排泄状況をチェック、毎朝行うバイタルチェックを観ながら、利用者の身動きを判断しながら異常があれば勤務している介護者に情報を提供すると共に、医師の連絡が必要な場合にはすぐに連絡して、対処してもらうようにしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬について、処方箋を確認し配薬しています。また、副作用情報や薬の特徴についても、カンファレンスや勉強会で学んだり、その都度、医師や看護師に確認するようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を使い排便を管理し、間隔が長くなっている利用者には繊維質の食べ物や、ヨーグルトを食べてもらったり、体を動かすように働きかけを行ったり、水分を多く取ってもらうようにしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアを注意して行うことや、歯科医のチェックを受けるようにしています。歯科衛生士に口腔ケアの指導を受けています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は、特に気を付け夏場には多く摂取してもらったり、散歩や買い物後には必ず水分補給をしています。また、栄養バランスを保てるように栄養士のアドバイスを受けています。		

岐阜県 NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防のために、利用者、職員はインフルエンザの予防接種を全員行っています。疥癬防止のために定期的に利用者の布団を日光消毒し、シーツ類の洗濯に気を付けています。食中毒の予防として、まな板やふきん類は次亜塩素酸で消毒し、手洗いに注意しています。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	出来る限り食品は、まとめ買いせず、毎日買い物に出掛け仕入れてくるようにしています。調理道具の消毒は、次亜塩素酸で消毒し、冷蔵庫内の点検も定期的におこなっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者の役割分担として、玄関の花の管理をしてもらっています。端の苗を利用者に買ってきてもらい、掃除や水やりを日課としてもらっています。また、入居者の御家族が手作りの置物を持ってきてくれそれを置いたりしています。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の皆さんが集まってこられる食堂には、正月は花もち、七夕には笹を飾ったり季節の飾り付けをし、季節感を持ってもらうように花を飾ったりしています。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には一人になれる空間はないが、廊下にソファを置いているのでそこで利用者同士話をしたり、お互いの居室を訪問して、お菓子を食べ、お茶を飲んで過ごしています。		

岐阜県. NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

岐阜県 NPOグループホーム すずらの木 (1階)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの理念を忘れることがないように、日常生活の利用者一人一人との関わりの中で、介護者が尊厳を守りながら介護できているのかを検証し、反省して行くことが大切なことと思っています。人生の先輩である利用者の皆さんを介護者が尊敬し、学んで行く姿勢がないと、「介護してやる」という態度になって表れ、利用者の尊厳を守れなくなります。認知症になっても、一人の人間として最期まで生活する権利を持っていることを忘れてはいけない。介護する者は、利用者にとって一番影響を及ぼす環境因子であることを認識し、介護者の関わりによって、不穏になったり、混乱を引き起こしたりしますが、1つ1つの介護が良かったのか、入居者にどんな影響を及ぼしたのかを客観的に見直すことが大切と思っています。その中で利用者が、物忘れや、居場所がわかなくなっても最期まで自由で、生き活きと、役割を持ち、自立した生活を送り続けることを見守り、支援して行くことを職員全体で議論しあいながら模索していきたいと考えています。